



2017 年 新年ご挨拶

スーパー連携大学院コンソーシアム web ニュース
2017 年 1 月 16 日

●2017 年 新年ご挨拶

スーパー連携大学院コンソーシアム
会長 梶谷 誠



あけましておめでとうございます。

昨年は世界的に想定外のことが続出しましたが、今年も波乱の年になりそうです。

スーパー連携大学院も文部科学省の「大学間連携共同教育推進事業」が3月で終了し、財政的にも自律せねばならない非常に厳しい年になりそうです。しかし、スーパー連携大学院が10年前から提唱し、訴えてきた産学官で協働してイノベーション人材を育てるという理念は、最近のさまざまな場で唱えられるようになり、政府の施策にも取り入れられようとしています。特に、産学共同研究の更なる推進を謳う中で、産業界からの資金の大幅な増額とともに、産学共同研究への大学院生の参画と学生への給与の支給まで推奨していることは、まさにスーパー連携大学院が主張してきたことにほかなりません。

ところで、スーパー連携大学院は昨年3月に初のイノベーション博士を輩出したことを節目に、開設以来の活動の見直しを行い、改善すべき点を明確にし、今年度から新たな行動計画の下で再出発することになりました。

重要な改善点は以下の3点です。

- ① 従来のイノベーション博士養成の目的を堅持しつつも、その裾野を広げるため、イノベーション修士の育成もメインの目的とする。
- ② スーパー連携大学院では、専門教育のカリキュラムは各大学、各大学院にまかせることとし、スーパー連携大学院独自のイノベーション教育プログラムに重点を置く。
- ③ 修士研究、博士研究のための産学共同研究プロジェクトを積極的に発掘するため、企業と大学と学生の組み合わせをコーディネートする仕掛けを新たに構築する。

このような改善を加え、スーパー連携大学院の持続的な発展を図り、社会の期待に応えたいと考えています。

しかしながら、スーパー連携大学院の運営に必要な資金(学生への奨学金の提供などの学生支援費用を含む)を現在のコンソーシアム会費収入だけでは賄うことは非常に困難な状況にあります。そこで、別途ご案内しておりますように、この度「スーパー連携大学院教育プログラム寄付金」なる制度を立ち上げました。ご賛同いただき、ご協力頂ければ幸いです。

スーパー連携大学院はこれまでも多くの方々、産業界、行政機関等の温かいご支援をいただき、学生も現在30名ほどが在籍しております。上に述べましたように、最近の産学官連携の流れを先取りした先駆的な取組と自負しております。

この火を消さないよう、さらに一層邁進してまいりますので、今後ともご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。